

6 地域重点政策ユニット

地域重点政策ユニットは、主な施策の展開方向に基づいて、重点的に取り組むプロジェクトです。

地域重点政策ユニットのプロジェクト名称	推進エリア
1 日本遺産*「炭鉄港*」を活用した交流人口*拡大プロジェクト	空知地域 石狩地域 後志地域 胆振地域
2 アイヌ文化等の地域資源を活かした日胆地域活性化プロジェクト	胆振地域 日高地域
3 ジオパーク*の連携による関係人口*等の創出・拡大プロジェクト	胆振地域 空知地域 日高地域 上川地域 オホーツク地域 十勝地域
4 縄文遺跡群などを活用した魅力発信と誘客促進プロジェクト	渡島地域 檜山地域 石狩地域 胆振地域
5 一次産業の未来を広げる産業振興プロジェクト	空知地域
6 「空知」の魅力発信・誘客促進プロジェクト	空知地域
7 「空知」に関わりを持つ人材創出プロジェクト	空知地域
8 若者の地元定着促進と道外からの人の呼び込みプロジェクト	石狩地域
9 食と観光の魅力発信プロジェクト	石狩地域
10 安心して子どもを産み育てられる環境づくりプロジェクト	石狩地域
11 自然環境と調和したまちづくりプロジェクト	石狩地域
12 農林水産業の持続的発展・ブランド化推進プロジェクト	後志地域
13 地域資源を活用した持続可能な観光地域づくりプロジェクト	後志地域
14 多様性を尊重し誰もが安全安心に暮らせる地域づくりプロジェクト	後志地域
15 脱炭素社会*を創造する「いぶり」産業展開プロジェクト	胆振地域
16 住みたい・訪れたい「いぶり」地域づくりプロジェクト	胆振地域
17 「ナナイロひだか」産業振興プロジェクト	日高地域
18 「ナナイロひだか」人材確保・育成プロジェクト	日高地域
19 「ナナイロひだか」魅力向上・発信プロジェクト	日高地域

日本遺産「炭鉄港」を活用した交流人口拡大プロジェクト

【推進エリア】道央広域連携地域（空知地域、石狩地域、後志地域、胆振地域）

【主な実施主体】国、道、市町、民間、NPO

目的

日本遺産[※]認定から、PR資材の整備やガイドの育成、地元への周知活動によるシビックプライド[※]の醸成などを行うことで、知名度向上はもとより、協力事業者の拡大など着実に推進体制を充実させてきました。

これらの資産を活かし、様々な主体と連携しながらプレミアム旅行商品の造成や関連商品・サービスの開発などインバウンド[※]も見据えた稼ぎの仕組みに磨きをかけるとともに、スルーガイドの育成をはじめとした、地域のプレイヤー育成を継続し、交流人口[※]の拡大と雇用の創出を図ります。

施策展開

- 【施策】
- プレミアム旅行商品の造成など具体的に稼ぐ仕組み作り
 - 地域のプレイヤーを育成し、活躍の場、雇用の創出

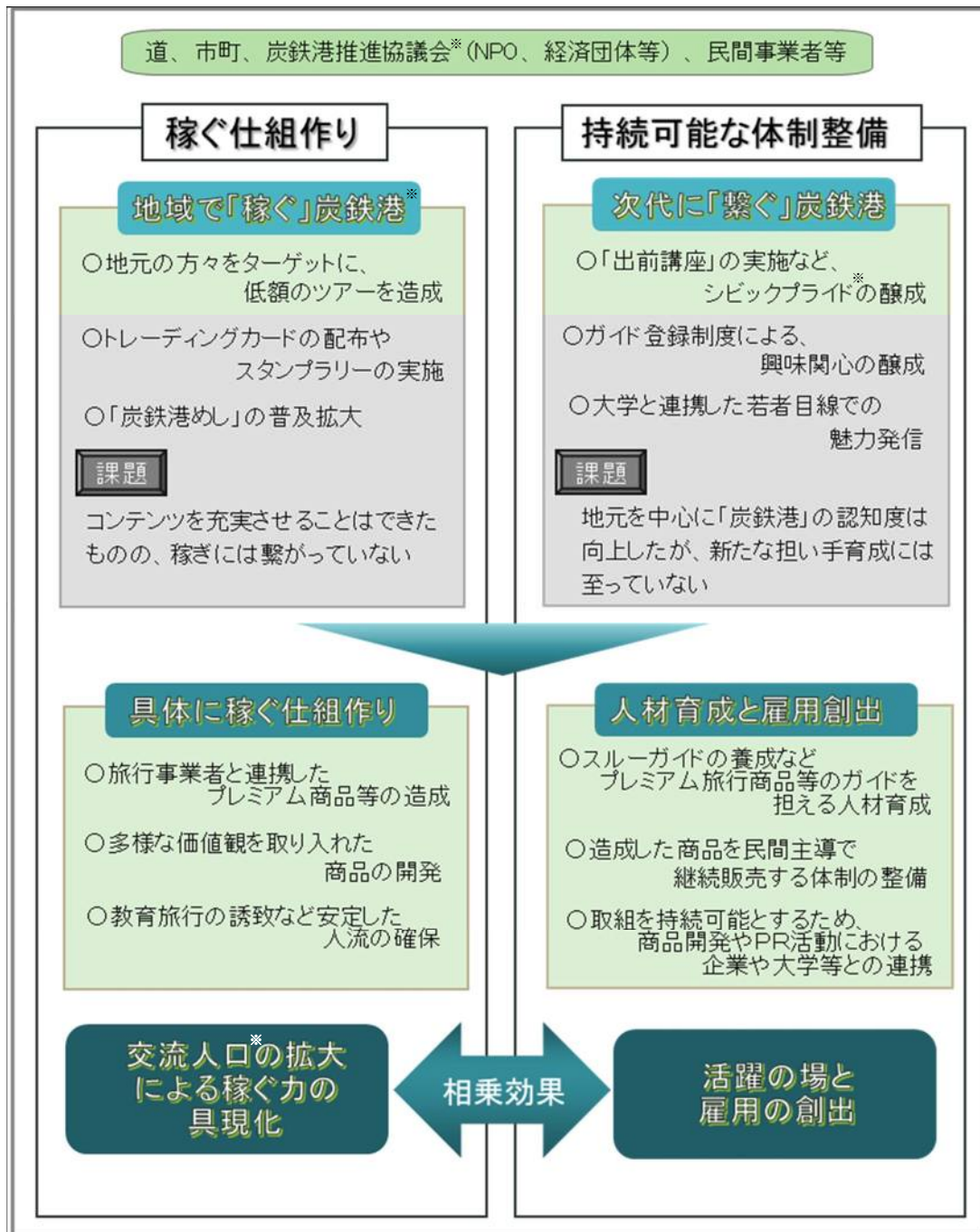
〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI[※]）〉

○炭鉄港推進協議会[※]構成市町への観光入込客数

16,427千人(R5) → 16,920千人(R11)

＜施策ごとの主な取組方向＞

- プレミアム旅行商品の造成など具体的に稼ぐ仕組み作り
 - 旅行事業者と連携したプレミアム旅行商品等の造成
 - 学生をはじめ、多様な価値観を取り入れた商品開発
 - 教育旅行の誘致など安定的な人流の確保
- 地域のプレイヤーを育成し、活躍の場、雇用の創出
 - スルーガイドの養成など、プレミアム旅行商品等のガイドを担える人材の育成
 - 造成した商品を民間主導で継続販売していく体制の整備
 - 取組を持続可能とするため、商品開発やPR活動における企業や大学等との連携



関連する主な基盤整備

- 安心で快適な旅ができる交通ネットワークの整備
 - ・観光拠点へのアクセス道路の整備推進
 - ・統一的なイメージ形成に資する案内標識などの情報基盤の整備推進

関連するSDGsの目標



アイヌ文化等の地域資源を活かした日胆地域活性化プロジェクト

【推進エリア】道央広域連携地域（胆振地域、日高地域）

【主な実施主体】国、道、市町村、民間、NPO

目的

アイヌ文化復興・発展の拠点として、ウポポイ[※]（民族共生象徴空間）が整備されたことから胆振・日高地域がより一層連携するなど、アイヌ文化を核とした胆振・日高地域の魅力ある地域資源を一体的に発信し、相互に観光誘客を図る広域観光の促進により、関係人口[※]の創出・拡大を図ります。

施策展開

- 【施策】
- 胆振・日高地域が有する地域資源の魅力の発掘・磨き上げ
 - 地域の強みの国内外発信等による新たな人の流れの創出

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI[※]）〉

- 胆振・日高地域への観光入込客数 1,806万人（R5）→ 2,041万人（R11）

＜施策ごとの主な取組方向＞

- 胆振・日高地域が有する地域資源の魅力の発掘・磨き上げ
 - アイヌ文化などの地域の歴史・文化の理解・体験機会の創出
 - 2つのユネスコ世界ジオパーク[※]（洞爺湖有珠山、アポイ岳）の更なる魅力の向上・発信
 - 日本最大の軽種馬生産地域としての魅力の向上・発信
 - モニターツアーの実施などによる新たな地域資源の発掘
 - 豊かな大地と海の食材など地域産品を活用した食のブランド力向上
- 地域の強みの国内外発信等による新たな人の流れの創出
 - ウポポイ誘客促進戦略（国土交通省北海道局が策定）に基づく国の取組との連携等による誘客及び広域周遊の促進
 - アイヌ文化やジオパークなどの地域の歴史・文化をテーマとした教育旅行の誘致
 - 海岸線や湖畔、牧場地帯などの豊かな風景を楽しむサイクルーツリズム[※]の促進
 - 支笏洞爺国立公園・日高山脈襟裳十勝国立公園の魅力や登山情報の発信
 - 日高自動車道の延伸を契機とした周遊観光の促進

日胆地域が有する地域資源

- アイヌ文化をはじめとする地域の歴史・文化
- 2つのユネスコ世界ジオパーク※（洞爺湖有珠山、アポイ岳）
- 日本最大の軽種馬生産地域
- 豊かな大地と海の食材

魅力発掘

磨き上げ

地域の強みを生かした取組の展開

広域周遊の取組

教育旅行の誘致

サイクルツーリズム※
の推進

自然の魅力や
登山情報の発信

国内外への発信

新たな人の流れの創出による日胆地域の活性化

関連する主な基盤整備

- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
- ・観光拠点へのアクセス道路の整備

関連するSDGsの目標



ジオパークの連携による 関係人口等の創出・拡大プロジェクト

【推進エリア】道央広域連携地域（胆振地域、空知地域、日高地域）

【連携地域を越えて取組を推進するエリア】上川地域、オホーツク地域、十勝地域

【主な実施主体】道、市町村、民間、NPO

目的

道内には、洞爺湖有珠山、アポイ岳、白滝、三笠、とかち鹿追、十勝岳地域の6つの日本ジオパーク*があります。このうち洞爺湖有珠山とアポイ岳がユネスコ世界ジオパークに認定されているほか、上川中部地域において大雪山カムイミンタラジオパーク構想推進協議会が、日本ジオパークの認定を目指して活動しています。

ジオパークは重要な地域資源として、その保護に取り組むことだけではなく、環境教育のほか、火山災害などの防災教育における教材としての活用、歴史や地質など各地域の特色を活かした観光振興や地域振興に繋がることが期待されます。

このためジオパークの魅力を活かした各地域における特色ある取組や、地域間及び北東北3県等との連携を通じて、更なる観光誘客や関係人口*等の創出・拡大等に努めます。

施策展開

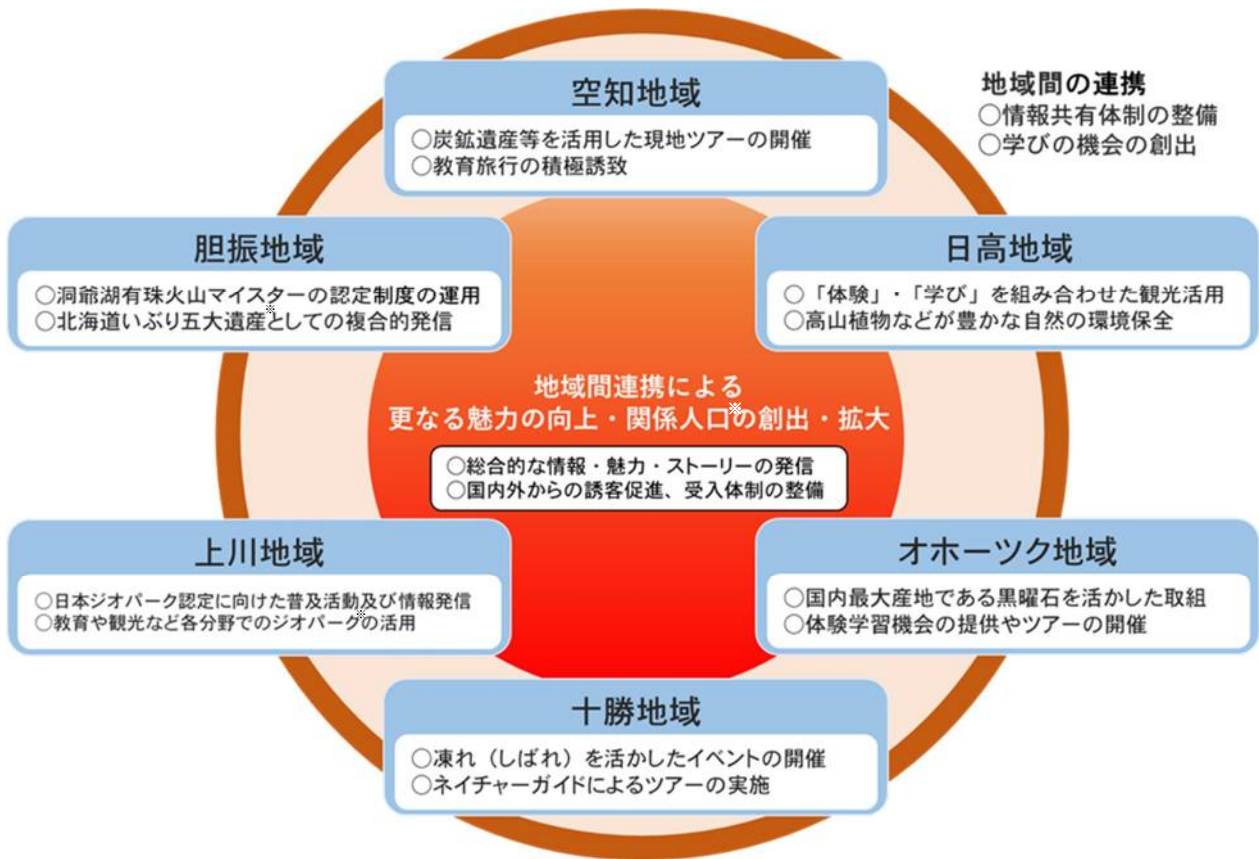
- 【施策】
- 各地域におけるジオパークを活かした特色ある取組の促進
 - 各ジオパーク（構想）推進協議会・関係団体のネットワークを活用した更なる魅力の向上、関係人口の創出・拡大

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI*）〉

○ジオパーク構成市町への観光入込客数 1,866万人（R5）→ 2,200万人（R11）

＜施策ごとの主な取組方向＞

- 各地域におけるジオパークを活かした特色ある取組の促進
 - ジオサイトや食の魅力発信、体験ツアーの実施
 - ジオの恵みやストーリー性を活かした関連商品・サービスの創出
 - ジオパークを題材とした環境教育・防災教育・ふるさと教育の推進
 - ジオパークを舞台としたスポーツ大会など特色あるイベントの開催
- 各ジオパーク（構想）推進協議会・関係団体のネットワークを活用した更なる魅力の向上、関係人口の創出・拡大
 - 道内ジオパークに係る総合的な情報発信
 - 歴史や文化をまとめた北海道のジオストーリーの発信
 - 北海道のジオストーリーを活用した道内ジオパーク周遊のしかけ作り
 - 国内外からの誘客促進とガイドや団体の育成等の受入体制の整備促進
 - ジオパークに携わる多様な主体による学びの機会の創出



関連する主な基盤整備

- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
- ・観光拠点へのアクセス道路の整備

関連するSDGsの目標



縄文遺跡群などを活用した魅力発信と誘客促進プロジェクト

【推進エリア】道南連携地域（渡島地域、檜山地域）

【連携地域を越えて取組を推進するエリア】石狩地域、胆振地域

【主な実施主体】国・道・市町村・民間

目 的

令和3年（2021年）7月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産[※]に登録決定され、北海道初の世界文化遺産が誕生しました。

地域にはこの世界遺産となった遺跡の他にも、北海道初の国宝である中空土偶をはじめとする数多くの縄文の出土品や遺跡が見つかっています。

また、平成29年（2017年）には、江差町並びに函館市及び松前町の歴史的魅力や特色を通じた伝統を語るストーリーが日本遺産[※]として認定されたほか、北海道遺産[※]や特徴的な文化財などが数多くあります。

これら先人から受け継いだ貴重な財産への理解を深め、郷土の誇りと愛着を再認識することで、次世代へ継承していくとともに、これらの魅力ある地域資源を活用し、観光など地域産業の活性化に繋げていく必要があります。

このため、市町村をはじめ、関係団体や地域住民等と連携を図りながら貴重な資源を最大限活用した取組を推進し、魅力あふれる地域づくりに取り組んでいきます。

施策展開

【施策】 ■ 縄文文化の魅力発信と次世代への継承の推進

■ 縄文遺跡群をはじめとする地域資源を活用した誘客促進

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI[※]）〉

○観光入込客数

[内 訳]

渡島地域 1,160万人(R5) → 1,408万人以上(R11)

檜山地域 135万人(R5) → 155万人以上(R11)

胆振地域 1,642万人(R5) → 1,833万人以上(R11)

石狩地域 2,861万人(R5) → 3,100万人以上(R11)

○縄文文化の魅力情報発信に向けた取組を行った市町村数（渡島地域）

2市町(R5) → 11市町(R11)

〈施策毎の主な取組方向〉

■ 縄文文化の魅力発信と次世代への継承の推進

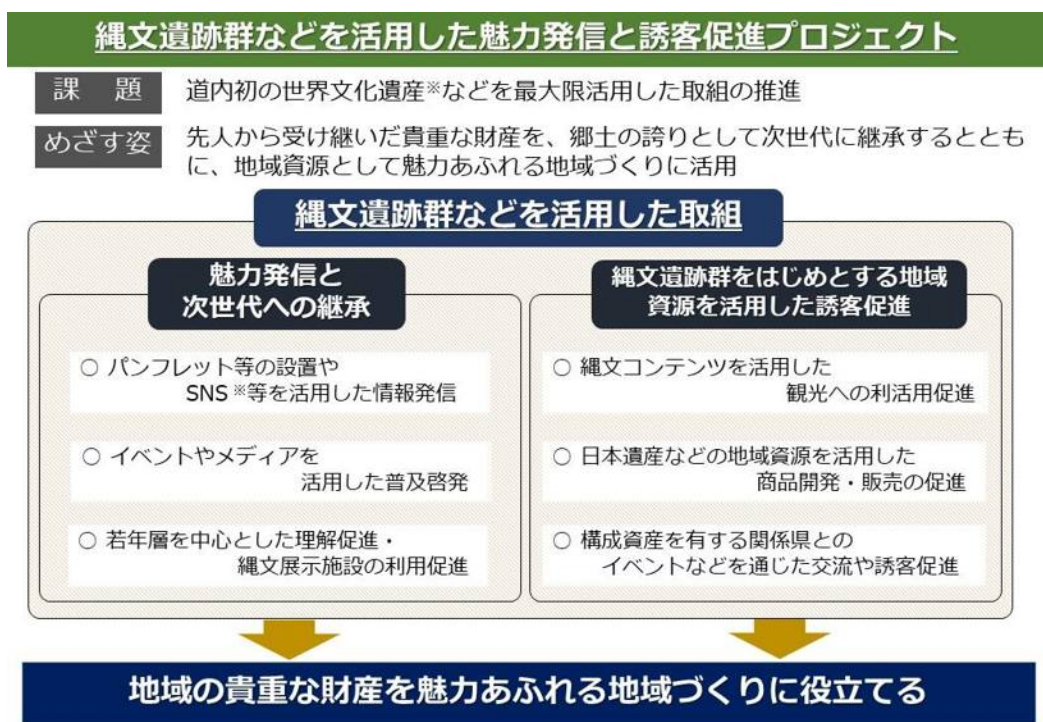
○若年層を中心とした縄文文化の魅力や価値の理解促進

○地元高校生による幼児・児童向けに縄文の魅力を伝える普及活動等の実施

- 公共交通機関等へパンフレット（多言語）等の設置やSNS*等を活用した情報発信
- パネル展の実施のほか、イベントやメディアを活用した普及啓発
- 地域の縄文展示施設の利用促進

■ 縄文遺跡群をはじめとする地域資源を活用した誘客促進

- 縄文コンテンツ*を活用した観光への利活用の推進
- 日本遺産*などの地域資源を活用した商品開発・販売の促進
- 構成資産を有する関係県とのイベントなどを通じた交流や誘客促進
- 縄文コンテンツの充実のほか、受入環境や二次交通*の整備によるアドベンチャー
トラベル*の推進



関連するSDGsの目標



一次産業の未来を広げる産業振興プロジェクト

【推進エリア】空知地域

【主な実施主体】国、道、市町、民間、NPO

目的

空知農業が食料安全保障の強化に最大限貢献しながら持続的に発展していけるようICT[※]等の先端技術やカーボンクレジット[※]など環境に配慮した取組を積極的に取り入れつつ、農業生産基盤の整備など「土づくり」を進めるとともに地域を牽引するリーダーの育成など「人づくり」を進めるほか、空知産農産物のブランド化を推進していきます。

併せて、地域特性を活かした企業・研究機関等の誘致促進し、さらなる産業の振興に取り組みます。

施策展開

- 【施策】
- 空知農業の持続的な発展に向けた「土づくり」と「人づくり」
 - 農産物ブランド化の推進、農産物をベースにした加工品づくりと付加価値向上及び国内外への販路開拓の促進
 - 地域の特性を活かした企業や研究機関等の誘致に向けた取組の促進

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI[※]）〉

○空知の耕作面積の維持 113,500ha (R5) → 113,500ha (R11)

＜施策ごとの主な取組方向＞

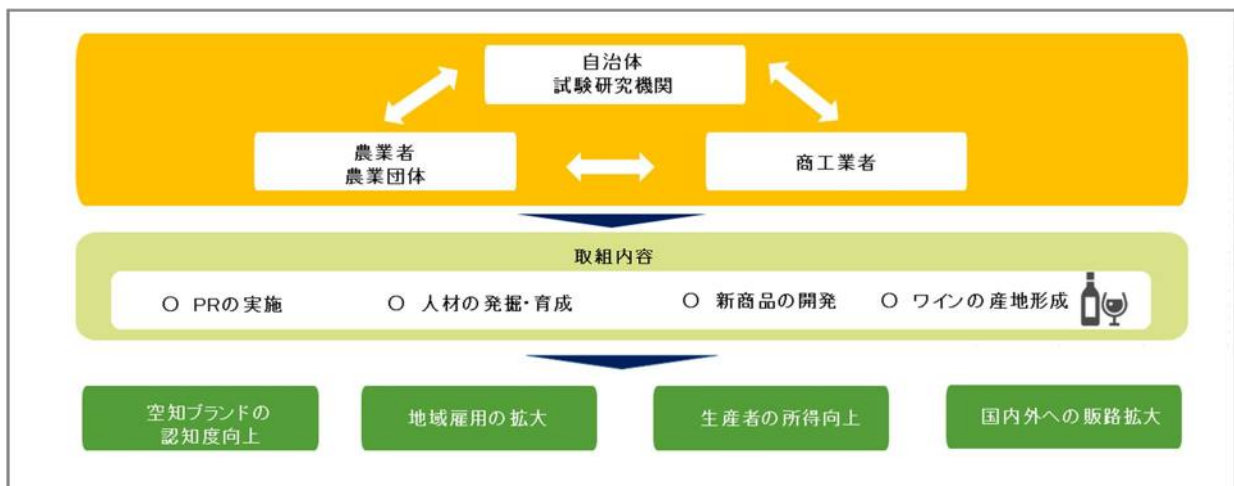
■ 空知農業の持続的な発展に向けた「土づくり」と「人づくり」

- ロボット、ドローンなどICT・AI[※]を活用したスマート農業[※]の推進
- 農業生産基盤の整備や耕畜連携[※]の推進など生産性向上に向けた取組（土づくり）
- 空知農業を牽引するリーダーの育成や担い手の確保（人づくり）
- 温室効果ガス[※]の排出削減に向けた「水稻中干し期間の延長[※]」などカーボンクレジットの推進



■ 農産物ブランド化の推進、農産物をベースにした加工品づくりと付加価値向上及び国内外への販路開拓の促進

- 米をはじめ野菜、花などの空知産農産物や加工品のブランド化、販路拡大に向けた情報発信やPR活動の実施
- 6次産業化^{*}、農商工連携^{*}による付加価値の高い商品開発や人材育成への支援
- 醸造用ぶどうの生産拡大と良質なワインづくりへの支援による産地形成
- 輸出などによる販路開拓の促進



■ 地域の特性を活かした企業や研究機関等の誘致に向けた取組の促進

- 関係団体と連携し、雪氷冷熱^{*}や良質な農産物など地域特性を活かした企業や、試験研究機関等の誘致促進
- 「ゼロカーボン北海道^{*}」の実現に向け、木質バイオマス^{*}をはじめとした再生可能エネルギー^{*}の導入支援

関連する主な基盤整備

- 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備
 - ・農業用排水施設の整備推進
 - ・区画整理や暗渠排水、客土等の農用地の整備推進
- 農地及び農業用施設の機能回復や災害を回避するための施設の整備
 - ・農地や農業用施設の機能回復の整備推進
 - ・農業用ため池の地震対策整備及び耐震診断の支援
- 農産物流通の合理化などのための農道の整備
- 高規格道路の整備
- 物流ネットワーク形成のための道路網の整備
 - ・高規格道路と一体となった道路網の整備推進
 - ・空港、港湾などの物流拠点へのアクセス道路の整備推進

関連するSDG sの目標



「空知」の魅力発信・誘客促進プロジェクト

【推進エリア】空知地域

【主な実施主体】国、道、市町、民間、試験研究機関

目的

空知地域は、日本遺産※「炭鉄港※」をはじめ、ワインや日本酒、花など空知ならではの地域資源を有しており、また近年は、国内外のアドベンチャートラベル※への機運の高まりを追い風に、豊かな自然への関心も高まっています。

こうした状況を踏まえ、引き続き、積極的な「空知」の魅力発信やPR活動を実施するとともに、食の魅力を活かした観光の振興を図り、空知ブランドの強化や国内外との人と物の流れの創出を推進します。

施策展開

- 【施策】
- 道内外へのPR活動や情報発信
 - 豊かな地域資源や地域に根ざした食の魅力を活かした観光の振興

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉

○「そらち・デ・ビュー」公式SNS※のフォロワー数	20,120人（R5）→ 29,720人（R11）
○管内への観光入込客数	1,274万人（R5）→ 1,350万人（R11）
○移住相談件数	781件（R5）→ 919件（R11）

＜施策ごとの主な取組方向＞

■ 道内外へのPR活動や情報発信

- 北海道空知地域創生協議会※による「空知」の知名度向上に向けた道内外における戦略的な情報発信
- メディアやSNS等を活用した効果的な情報発信及び交流イベントの開催などによる関係人口※の創出・拡大
- 管内の豊かな地域資源（炭鉱遺産・食・花など）を活かしたPR活動の実施
- 移住・定住に向けた、地域の「しごと」「住まい」「暮らし」に関する団体との情報共有、一体的な情報発信及び移住相談・体験の促進
- 地域おこし協力隊※における活動に関する情報発信や空知地域おこし協力隊ネットワークとの連携



- 豊かな地域資源や地域に根ざした食の魅力を活かした観光の振興
 - 炭鉱遺産や花など豊かな地域資源を活かした誘客の促進
 - 空知産ワインや日本酒、炭鉄港めしなどを活用した食観光の推進
 - 米や野菜、花など空知産農産物、加工品のブランド化、販路拡大
 - 都市圏からの地理的優位性を活かしたマイクロツーリズム^{*}の推進
 - 交通拠点と観光拠点を結ぶ交通ネットワークの利用促進
 - 地域における観光地づくりの推進や外国人観光客の受入体制の整備
 - アドベンチャートラベル^{*}など地域資源を活かした体験型観光の推進
 - 農村ツーリズム^{*}や産業観光などの強みを活かした修学旅行・学習旅行等の誘致促進



関連する主な基盤整備

- 安心で快適な旅ができる交通ネットワークの整備
 - ・観光拠点へのアクセス道路の整備推進
 - ・自転車道や案内標識の整備推進
 - ・W i - F i スポットの整備促進

関連するSDG s の目標



「空知」に関わりを持つ人材創出プロジェクト

【推進エリア】空知地域

【主な実施主体】国、道、市町、民間、NPO

目的

道内の中でも、特に厳しい人口減少が深刻化する空知地域において、将来にわたって住み続けられるよう、オール空知の連携を深めながら、地域医療や福祉の充実、生活交通の維持・確保をはじめとした安心で住み良い暮らしの形成や新規高卒者の地元就職などの雇用対策を進めます。

また、管内自治体・民間企業と連携し、地域住民のシビックプライド[※]醸成や次世代リーダーの育成にも取り組みます。

施策展開

- 【施策】
- 新規高卒者の地元就職の促進など雇用対策
 - 「空知を育てる」次世代リーダーの育成
 - 安心で住み良いまちづくり

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI[※]）〉

○新規高卒者管内企業就職率	52.0% (R5)	→	63.9% (R11)
○保育所等入所待機児童 [※] 数	3人 (R6)	→	0人 (R11)

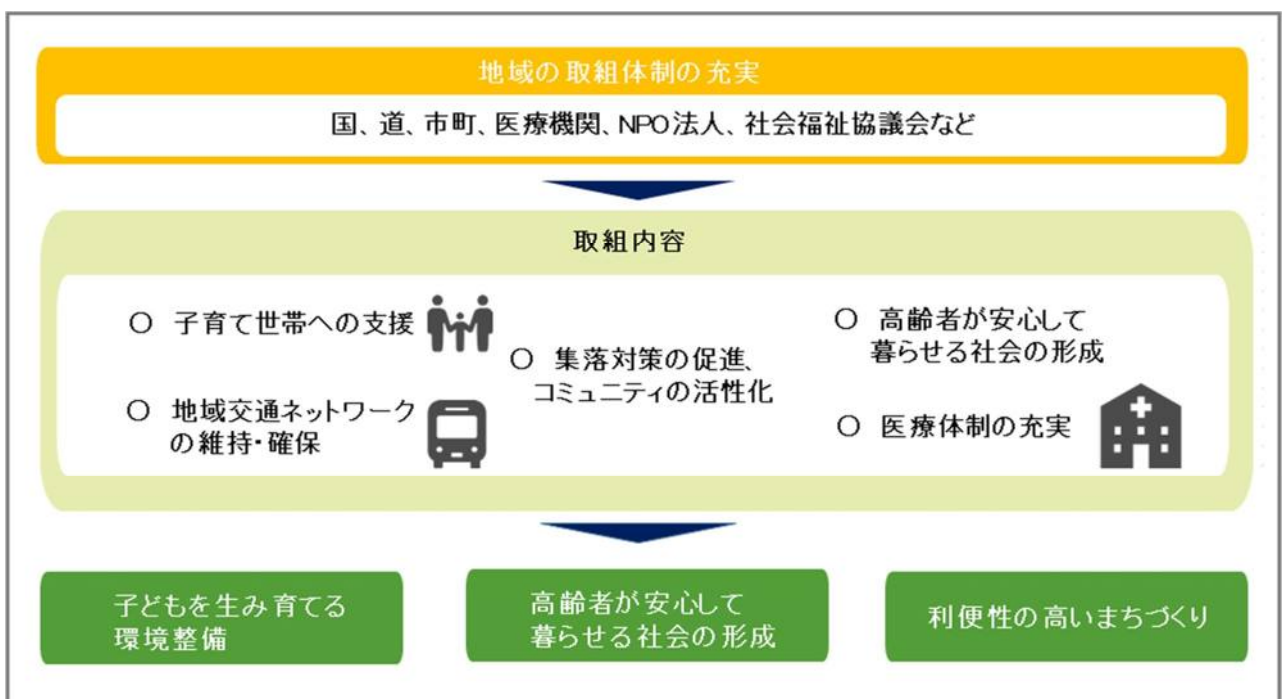
＜施策ごとの主な取組方向＞

- 新規高卒者の地元就職の促進など雇用対策
 - 地元の新規学卒者など若者を中心とした人材の確保・定着
 - 都市圏から管内への人材誘致・定着に向けた取組の促進
 - 障がいのある方の農業就労の場の確保に向けた農福連携[※]の取組の推進
- 「空知を育てる」次世代リーダーの育成
 - 「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的な推進や地域課題探究型の学習体験を通じてまちづくりを牽引する地学協働体制の構築
 - 地域に根ざした食育[※]の推進による次世代リーダーの育成
 - 振興局と管内自治体、民間企業などと連携した地元住民のシビックプライドの醸成
 - 空知農業を牽引するリーダーの育成や担い手の確保（人づくり）（再掲）



■ 安心して住み良いまちづくり

- 広域的な地域における医療連携や救急医療^{*}体制の充実
- 安心して子どもを産み育てることができる環境づくりの推進
- 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の形成
- 関係機関の連携による防災体制の強化
- 地域の実情に応じた地域交通ネットワークの維持・確保のための取組の促進
- 集落対策の促進、コミュニティの活性化



関連する主な基盤整備

- 災害に備えた安全な道路交通環境の整備
 - ・緊急輸送道路*等の整備推進

関連するSDG sの目標



若者の地元定着促進と 道外からの人の呼び込みプロジェクト

【推進エリア】石狩地域

【主な実施主体】国、道、市町村、民間

目的

若者の道外への人口流出を抑制するため、石狩地域に立地する多数の大学等の教育機関をはじめ、市町村や関係団体、地元企業等との連携により、新規学卒者等の地元就職・地元定着の促進を図るとともに、1次産業も含め新たな就業環境づくりや企業誘致などによる雇用の場の創出、デジタル関連[※]や半導体など新しい地域産業を支える人材の確保などに取り組みます。

また、首都圏など道外から人を呼び込むため、石狩地域で生活する魅力を道外企業や学生に向けての発信や、移住相談、ワーケーション[※]の推進など、関係人口[※]の創出や拡大、移住・定住の促進に取り組みます。

施策展開

- 【施策】 ■ 若者の地元定着に向けた取組や道外からのU・I・Jターン[※]の促進
■ 地域産業の活性化や企業誘致等による雇用の場の創出

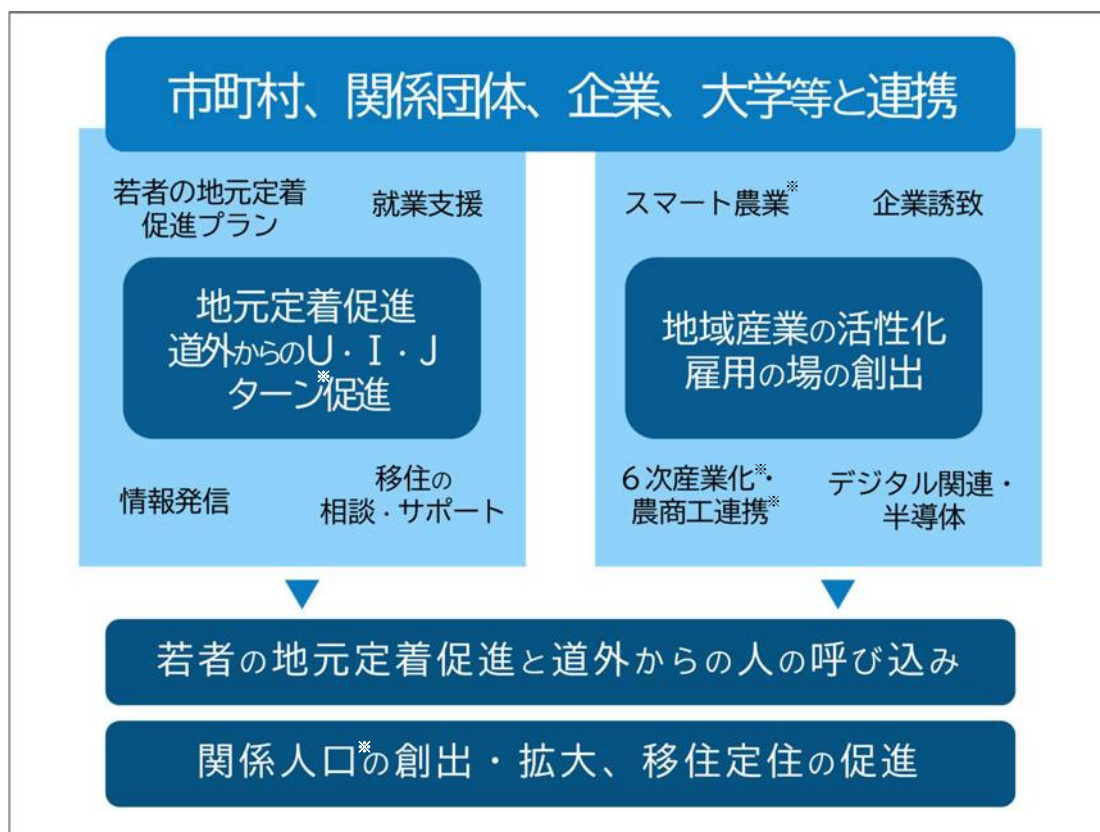
〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI[※]）〉

- 石狩地域における若い世代（15～39歳）の道外への転出超過数
2,827人（R5） → 2,827人（R11）
- 道央地域における「できれば今と同じ市町村に住み続けたい」と考える人の割合
73.2%（R5） → 73.2%（R11）
- 全道の新規大学卒業者の道内就職割合
前年度より改善（R7～R11）（※R5.3卒の道内就職割合：58.2%）
- 石狩地域の新規学卒・参入者の就農者数
5年間（R7～R11）で延べ80人増

＜施策ごとの主な取組方向＞

- 若者の地元定着に向けた取組や道外からのU・I・Jターンの促進
 - 若者の地元定着の促進に向けた取組
 - 地域の連携による就業に向けた支援
 - 地域おこし協力隊[※]等との連携による移住・定住促進のための効果的な情報発信
 - 移住促進に向けた相談サポートやワーケーションの推進
- 地域産業の活性化や企業誘致等による雇用の場の創出
 - スマート農業[※]の推進と次世代の石狩農業を担う人材の確保・定着に向けた取組
 - 農村ツーリズム[※]の振興と地産地消の推進
 - 地域資源を活かした6次産業化[※]・農商工連携[※]の推進

- 道外企業の本社機能の地方移転の促進
- ものづくり産業への支援を始めとした中小企業の振興と企業誘致の促進
- 半導体・デジタル関連産業[※]等に関する産業人材の確保に向けた取組



関連する主な基盤整備

- 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備
 - ・優良農地の維持や農業生産性の向上を図るための農地整備の推進
- 健全な森林の整備と保全の推進
 - ・森林の有する多面的機能[※]を高度に発揮させるための森林整備
- 水産物供給基地としての漁港・漁場づくり
 - ・漁業生産活動や水産物流通の拠点となる漁港・漁場の整備促進
- 半導体関連産業集積地域の交通アクセスの向上
 - ・半導体関連産業集積地域の利便性向上を図るための道路整備

関連するSDG sの目標



食と観光の魅力発信プロジェクト

【 推進エリア 】 石狩地域

【 主な実施主体 】 国、道、市町村、民間

目 的

都市と自然を満喫することができる石狩地域の特性を活かし、交流人口[※]や関係人口[※]の創出・拡大を図るため、風光明媚な景観、新鮮な食、多彩な温泉、様々な体験メニュー等が楽しめるアウトドアなど豊富な観光資源のもと、市町村をはじめ観光事業者等と連携して、その魅力を効果的に発信するなど誘客プロモーションに取り組みます。

また、観光客の満足度向上等につなげるための受入体制の整備や多様なニーズに対応した観光メニューの提供、地域の食の魅力向上・活性化に取り組みます。

施策展開

- 【施策】
- 石狩ならではの観光推進に向けたプロモーションの展開
 - 観光客の満足度を高める受入体制の整備に向けた取組の促進
 - 多様なニーズに対応した観光メニューの提供や地域の食の魅力向上・活性化に向けた取組の促進と魅力発信

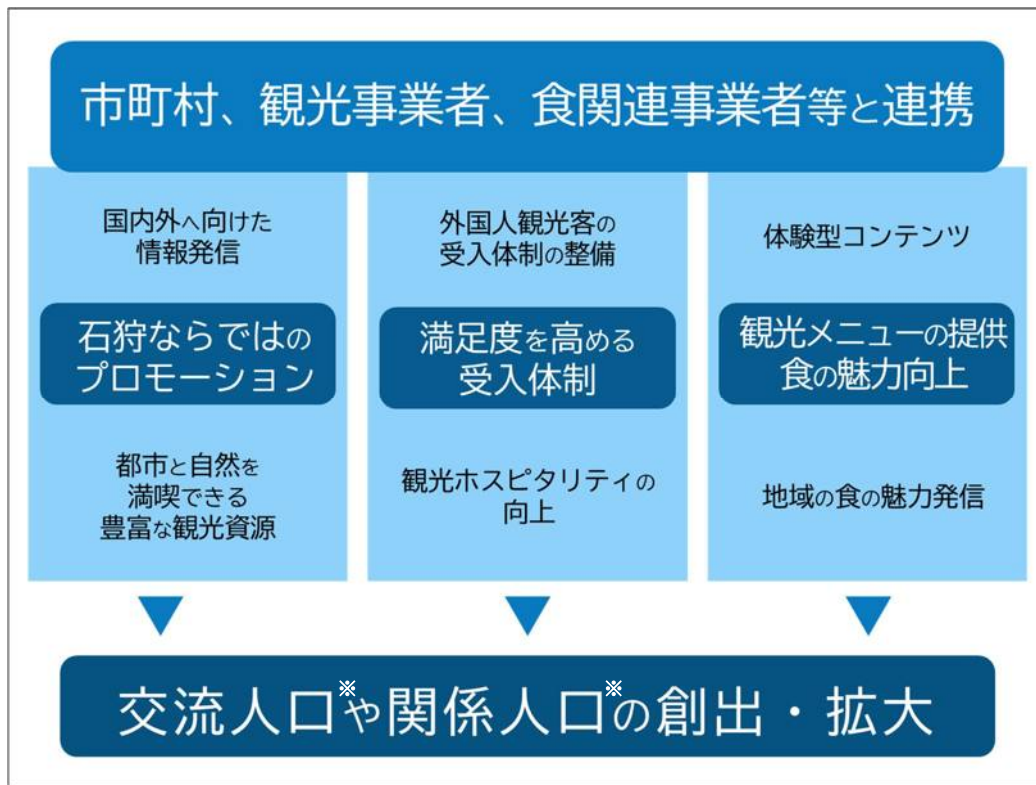
〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI[※]）〉

- 石狩地域の観光入込客数
2,861万人（R5） → 3,100万人（R11）
- 石狩地域の食品工業の付加価値率
35.8%（R3） → 35.8%（R11）

＜施策ごとの主な取組方向＞

- 石狩ならではの観光推進に向けたプロモーションの展開
 - 地域の連携体制の強化による観光の推進
 - 道内はもとより国内外からの誘客促進につなげるための食や観光の情報発信や来道観光客を石狩地域へ誘引する取組
 - 豊かな自然環境を背景とした豊富な観光資源の魅力発信
- 観光客の満足度を高める受入体制の整備に向けた取組の促進
 - 外国人観光客の受入体制の整備・充実に向けた取組の促進
 - 観光ホスピタリティの向上と満足度の高い観光地づくりに向けた取組の促進

- 多様なニーズに対応した観光メニューの提供や地域の食の魅力向上・活性化に向けた取組の促進と魅力発信
 - 自然、文化、スポーツ、食を楽しむ体験型コンテンツ[※]等多様な観光メニューや観光ルートの提供に向けた取組の促進
 - 地域の事業者との相談対応等を通じた食の魅力向上・活性化に向けた取組の促進と魅力発信



関連する主な基盤整備

- 安心で快適な旅ができる交通ネットワークの整備
 - ・新千歳空港及び丘珠空港の機能強化、施設整備促進
 - ・高規格道路の整備促進
 - ・大規模自転車道の整備促進
 - ・高規格道路と札幌都心とのアクセス強化
- 北海道新幹線の整備促進
 - ・札幌までの整備促進
- 食品輸出に係る石狩湾新港の機能強化
 - ・国際海上貨物の拡大に向けた石狩湾新港の機能強化
 - ・石狩湾新港へのアクセス機能の整備促進

関連するSDGsの目標



安心して子どもを産み育てられる環境づくりプロジェクト

【推進エリア】石狩地域

【主な実施主体】国、道、市町村、民間

目的

地域で安心して子どもを産み育てられるよう、地域の特性や課題を踏まえながら、市町村をはじめ関係団体等と連携し、出産・子育てを支える取組の充実を図るとともに、子育てをしながら働き続けられるよう、企業に対して、誰もが子育てと仕事を両立できる働きやすい職場環境づくりに向けた取組を実施します。

施策展開

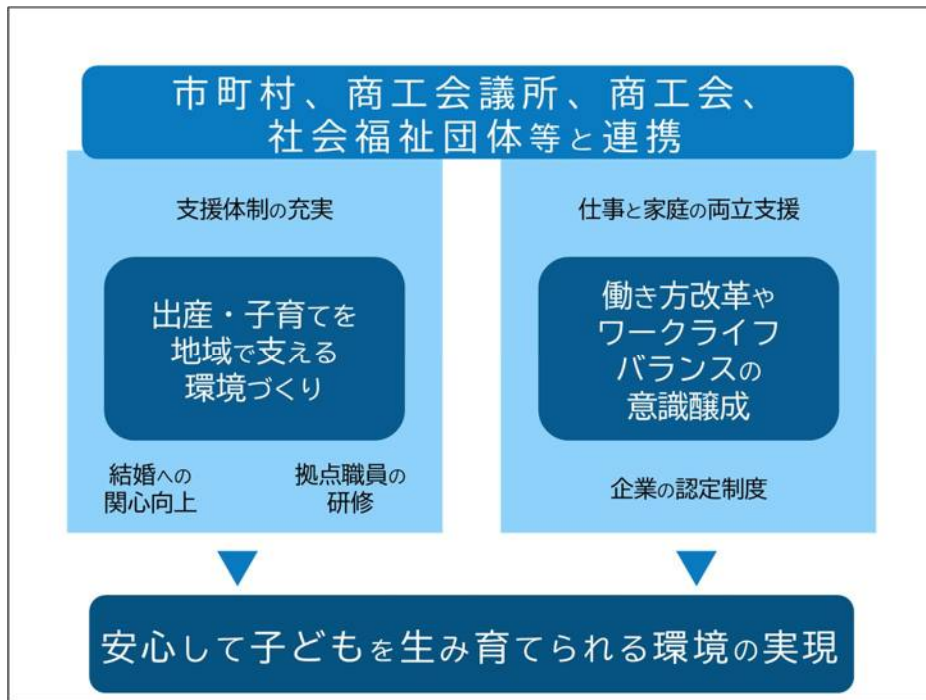
- 【施策】
- 出産・子育てを地域で支える環境づくり
 - 働き方改革やワーク・ライフ・バランス実現に向けた企業の意識醸成

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉

- 石狩地域の地域子育て支援拠点※数
38ヶ所（R6） → 39ヶ所（R11）
- 石狩地域の放課後児童クラブ数
93ヶ所（R6） → 106ヶ所（R11）
- 石狩地域における北海道働き方改革推進企業認定制度の認定企業数
158（R6） → 214（R11）

＜施策ごとの主な取組方向＞

- 出産・子育てを地域で支える環境づくり
 - 妊娠・出産・子育てに関する意識醸成と支援体制の充実
 - 結婚への関心を高める取組とサポート
 - 市町村ネットワーク会議や拠点職員研修会の開催
- 働き方改革やワーク・ライフ・バランス実現に向けた企業の意識醸成
 - 仕事と家庭の両立支援など就業改善の取組への機運醸成
 - 子育て支援を含む働き方改革に積極的な企業等を対象とする認定制度の推進



関連する主な基盤整備

○子どもを安心して育てられる環境づくり

- ・ 保育所などの老朽施設の更新や暑さ対策など新たなニーズに対応できる施設の整備
- ・ 子育て支援住宅の整備促進
- ・ 小児医療の提供体制の整備

関連するSDGsの目標



自然環境と調和したまちづくりプロジェクト

【推進エリア】石狩地域

【主な実施主体】国、道、市町村、民間

目的

今後、人口減少に伴う地域活力の低下や気候変動による日常生活への影響が懸念される中でも、住民一人ひとりが安心して暮らし続けられるよう、環境や生態系の保全、再生可能エネルギー*の普及や脱炭素（ゼロカーボン）の取組促進、不法投棄防止対策などにより、豊かな自然環境を守り育てるとともに、地域コミュニティ機能の維持・発揮に向けた取組や防災対策の推進など、誰もが住みやすいまちづくりの実現に向け取り組めます。

施策展開

- 【施策】 ■ 豊かな自然環境を守り育てる取組の推進
■ 誰もが安心して暮らせる社会の形成

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI*）〉

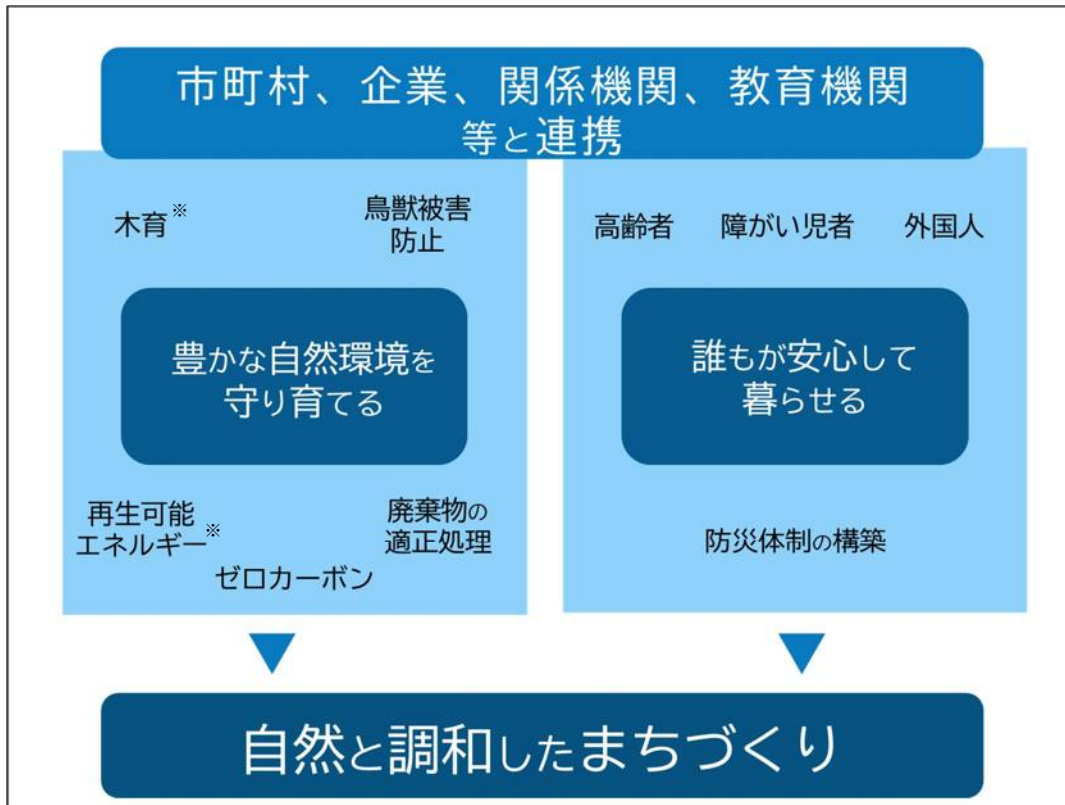
- 協働により実施する石狩地域での木育*活動
18回（R5） → 26回（R11）
- 石狩地域の狩猟免許所持者数
2,574人（R4） → 2,840人（R11）
- 石狩の新エネルギー*導入状況（発電分野の設備容量*）
50.7万KW（R4） → 80万KW（R11）
- 石狩地域の自主防災組織*活動カバー率
88.1%（R5） → 88.8%（R11）（※R5 全国平均85.4%）

〈施策ごとの主な取組方向〉

- 豊かな自然環境を守り育てる取組の推進
 - 企業や団体、教育関係機関など多様な主体と連携した木育の推進
 - エゾシカなどの鳥獣や外来種による被害等の把握及び関係機関との情報共有による農林被害防止対策の推進と狩猟者維持・担い手の確保
 - 再生可能エネルギーの普及や、省エネルギー・新エネルギーの導入促進に向けた情報共有と支援
 - 脱炭素型ライフスタイルの定着に向けた住民理解の促進
 - 廃棄物適正処理、不法投棄等撲滅に向けた取組及び3R*の推進
 - クリーンパートナー登録に向けた取組の推進

■ 誰もが安心して暮らせる社会の形成

- 高齢者の見守りや地域包括ケアシステム*の推進、高齢者のニーズに応じた住まいづくりの促進
- 障がい児者の自立支援、子育て支援の充実や外国人との共生など地域コミュニティ機能の維持・発揮に向けた取組
- 防災教育の強化や自主防災組織*の活性化に向けた取組の推進
- 関係機関との連携強化による防災体制の構築



関連する主な基盤整備

- リサイクル・廃棄物処理施設の整備
 - ・産業廃棄物を処理・資源化する施設の整備
 - ・一般廃棄物を処理・資源化する施設の整備
- 自然豊かな水辺環境の整備・保全
 - ・河川環境の再生に配慮した河川・砂防施設の整備
- 国内海上交通ネットワークの整備
 - ・災害に強い海上輸送ネットワークの構築を図るための港湾機能の強化
- 災害に備えた安全な道路交通環境の整備
 - ・災害に強い交通ネットワークの整備促進
- 洪水や土砂災害、火山噴火や大規模地震、津波などに備えた安全性の高い災害防止施設の整備
 - ・河川や砂防などの治水施設の整備促進

関連するSDGsの目標



農林水産業の持続的発展・ブランド化推進プロジェクト

【推進エリア】 後志地域

【主な実施主体】 国、道、市町村、民間、NPO

目 的

後志地域は、米、野菜、果樹、畜産など地域の特色を活かした農業、カラマツをはじめとした森林資源の循環利用*に向けた林業・木材産業、サケ、ホッケ、ウニ、ナマコなど多彩な水産物が水揚げされる水産業が基幹産業となっているものの、後継者不足や高齢化、所得の減少が進んでいます。

そのため、担い手の確保や収益性の向上に向けた取組を推進し、農林水産業の持続的発展を図るとともに、ワインをはじめとする豊富で良質な1次産品を活用した商品開発や情報発信などにより、農林水産物の高付加価値化やブランド化を促進していきます。

施策展開

【施策】

- 高品質で収益性の高い農産物の栽培及びICT*を活用した省力化技術の普及
- 道内一の収穫量を誇る醸造用ぶどうを活かしたワイナリーの集積とワイン製造におけるカーボンニュートラル*の取組の普及促進
- 水産資源の持続的利用や新たな増養殖の推進
- 林業・木材産業（全道屈指の強度を持つ「ようていカラマツ」等）の振興
- 多様な農林水産業の担い手の育成・確保
- 多彩な一次産品や特産品の地元利用と道内外への販路拡大

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI*）〉

- 新規就農者数 25人（R4） → 25人（R11）
- 「ようていカラマツ」を利用促進する「しりべし・くつろ木の会」会員数
33団体（R6） → 43団体（R11）
- 新規漁業就業者数 10人（R5） → 10人（R11）

<施策ごとの主な取組方向>

- 高品質で収益性の高い農産物の栽培及びICT*を活用した省力化技術の普及
 - さつまいもなどの高収益作物の導入推進
 - ICTを活用した省力化技術の普及
 - 鳥獣被害防止対策の推進

- 道内一の収穫量を誇る醸造用ぶどうを活かしたワイナリーの集積とワイン製造におけるカーボンニュートラル*の取組の普及促進
 - 栽培・醸造・マーケティング*等の技術の向上
 - ワイン製造におけるカーボンニュートラルに係る取組内容の調査・研究及び各ワイナリーへの普及促進

- 水産資源の持続的利用や新たな増養殖の推進
 - トラウトサーモンなど新たな養殖の推進
 - 漁港施設の有効活用等による海業の取組の推進
 - 水産物のブランド化など付加価値向上に向けた取組の推進
 - コウナゴなど適切な資源管理の推進
 - トドなどの海獣による漁業被害防止対策の推進
 - 藻場*保全などブルーカーボン*に関する取組の推進
 - 関係機関と連携した密漁防止対策の推進

- 林業・木材産業（全道屈指の強度を持つ「ようていカラマツ」等）の振興
 - 地域の特性に応じた森林づくりの推進
 - 地材地消*の推進
 - 「ようていカラマツ」としてのブランド化の推進
 - 鳥獣被害防止策の推進

- 多様な農林水産業の担い手の育成・確保
 - 担い手の育成・確保

- 多彩な一次産品や特産品の地元利用と道内外への販路拡大
 - 特産品の発掘・磨き上げ
 - 安全・安心を基礎とした「食」のブランド力の向上
 - 「ようていカラマツ」としてのブランド化の推進（再掲）
 - 地元食材のレストランでの利用促進など産消協働*の推進
 - 官民協働による国内外でのプロモーションの展開

農業の持続的発展

- ・高収益作物の導入推進
(さつまいもなど)
- ・ICT[※]を活用した省力化技術の普及
- ・鳥獣被害防止の推進

林業・木材産業等の健全な発展

- ・地域の特性に応じた森林づくり
- ・地材地消[※]の推進

水産業の持続的発展

- ・増養殖や資源管理の推進
(トラウトサーモンなど)
- ・海業やブルーカーボン[※]の取組の推進
- ・海獣被害や密漁防止対策の推進

担い手の育成・確保

農林水産業の持続的発展・ブランド化

地域のブランドの創造・確立

- ・特産品の発掘・磨き上げ
- ・「ようていカラマツ」のブランド化推進

販路拡大・観光と連携した「食」ブランドの発信

- ・地産地消、産消協働[※]の推進
- ・官民協働による国内外へのプロモーションの展開
- ・ガストロノミーツーリズム[※]の推進

関連する主な基盤整備

- 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備
 - ・水田・畑の整備推進
- 農地及び農業用施設の機能回復や災害を防止するための施設の整備
 - ・農地や農業用施設の機能回復
 - ・地すべり防止施設などの整備推進
 - ・河川などの治水施設の整備推進
- 健全な森林の整備と保全の推進
 - ・伐採跡地への植栽や間伐などの促進
- 水産物供給基地としての漁港・漁場づくり
 - ・漁港、増養殖場などの整備促進
- 高規格道路の整備
- 物流ネットワーク形成のための道路網の整備
 - ・物流拠点へのアクセス道路の整備促進

関連するSDGsの目標



地域資源を活用した持続可能な観光地域づくりプロジェクト

【推進エリア】 後志地域

【主な実施主体】 国、道、市町村、民間、NPO

目的

後志地域では、歴史的な建造物や景観がある小樽や、パウダースノーやサイクリング、ラフティングなどのアクティビティが豊富なニセコエリアに、国内外から多くの観光客が訪れており、本道を代表する観光エリアとなっています。一方で、観光客の季節偏在や地域偏在が課題となっており、観光の通年化や広域化に向けた取組を地域の関係機関と連携し進める必要があります。

新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限が解除されて以降の旅行者の消費動向の変化に対応しながら、自然景観や地域の文化の組み合わせによるアドベンチャートラベル[※]や、ワインをはじめとする多様な食資源を活かしたツーリズムの推進など、後志地域ならではの優れた地域資源を活用し、旅行者の滞在期間の延長や観光の通年化、広域化を図り、持続可能な観光地域づくりを推進します。

施策展開

- 【施策】
- 後志地域の自然景観や食資源を活用した広域観光の推進
 - ウィンタースポーツをはじめサイクリング、ラフティングなどのアクティビティや地域の文化等の組み合わせによるアドベンチャートラベルの推進
 - 地域の稼ぐ力を引き出す管内のDMO[※]との連携
 - 新たな交通ネットワークを広域的に活用するための連携した取組の推進
 - 地域の観光ビジネスで活躍できる国際感覚やコミュニケーション能力を備えた人材の育成

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI[※]）〉

○延べ宿泊者数 3,400 千人泊（R5）→4,000 千人泊（R11）

＜施策ごとの主な取組方向＞

- 後志地域の自然景観や食資源を活用した広域観光の推進
 - 農業・漁業体験など一次産業や食品加工業をはじめとする二次産業と観光事業者との連携による「食」を活かした魅力ある観光地づくり
 - 自然景観や食などの地域資源を活用した広域観光の推進

- ウィンタースポーツをはじめサイクリング、ラフティングなどのアクティビティや地域の文化等の組み合わせによるアドベンチャートラベル*の推進
 - インバウンド*受入体制の充実
 - 官民協働による国内外でのプロモーション展開
 - 自然・景観の保全と活用による質の高いコンテンツ*の提供（ニセコ山系ロングトレイルなど）

- 地域の稼ぐ力を引き出す管内のDMO*との連携
 - 北後志地域やニセコ地域を核とした周辺地域への広域化や観光消費の拡大
 - DMO との連携による効果的なプロモーションや情報発信

- 新たな交通ネットワークを広域的に活用するための連携した取組の推進
 - 宿泊地（ハブ）と周辺の地域（サテライト）が連携し、多彩な魅力ある観光資源を活用した通年型・滞在型観光の推進
 - シーニックバイウェイ*北海道の推進
 - 地域交通ネットワークの充実・確保
 - 広域観光の推進（再掲）
 - インバウンド受入体制の充実（再掲）
 - 自然・景観の保全と活用による質の高いコンテンツの提供

- 地域の観光ビジネスで活躍できる国際感覚やコミュニケーション能力を備えた人材の育成
 - インバウンド受入体制の充実（再掲）
 - 商品造成や観光誘客プロモーションができる人材の育成

地域資源を活用した持続可能な観光地域づくり



滞在・通年型観光の推進

- 広域観光の推進
- 持続可能な観光地域づくり

関連する主な基盤整備

- 安心して快適な移動ができる交通ネットワークの整備
 - ・広域観光を支える二次交通[※]の整備
- 高規格道路の整備促進
- 北海道新幹線の整備促進
- 自然豊かな水辺環境の整備・保全
 - ・環境に配慮した河川・砂防施設の整備促進
- 自然公園における利用施設の整備など自然とのふれあいの場づくり
 - ・自然公園の整備促進

関連するSDG s の目標



多様性を尊重し誰もが安全安心に暮らせる 地域づくりプロジェクト

【推進エリア】 後志地域

【主な実施主体】 国、道、市町村、民間、NPO

目的

人口減少や人手不足が課題となっている管内において、労働者の通年雇用化や学生を含む若年者に対する地元企業の魅力発信等を通じて、人材の流出を抑制し、地域経済の発展につなげるほか、移住・定住施策と一体となった取組等により UIJ ターン*を促進し、人材を誘致します。

また、年間を通じて多くの外国人が滞在する環境を活かし、グローバルな視点で地域の活性化や持続的発展に貢献するグローバル人材*の育成や、多文化共生社会*の実現に資する取組を推進します。

地域公共交通においては、利用促進や運転手の確保など、地域交通ネットワークの確保に向けた取組を進めます。

防災対策及び医療・福祉施策については、地域の特性を踏まえた施策を推進し、地域に暮らす人たちが安全安心に暮らせる環境づくりを行います。

さらに、行政と民間等との連携による脱炭素の取組が各地域で展開しつつある現状に鑑み、特に、再生エネルギーの活用や森林づくり、地域住民等のカーボンニュートラル*に対する更なる意識醸成など、環境と調和した地域づくりを進めます。

施策展開

- 【施策】
- 冬季に偏在する労働者の通年雇用化、学生と地元企業のマッチング支援や学生に対する情報提供を通じた地元定着の促進
 - 市町村と連携し、移住定住施策と一体となった人材誘致
 - 国際感覚やコミュニケーション能力を備えたグローバル人材の育成、多文化共生の推進
 - 地域公共交通ネットワークの維持支援
 - 地域の特性を踏まえた防災対策の推進
 - 安全かつ安心に暮らせる医療・福祉体制の整備
 - 地域住民等のカーボンニュートラルに対する意識醸成

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI*）〉

○管内就職件数（ハローワーク） 2,216 件（R5） → R5 実績以上（R11）

○日本語教室の開催場所 7か所（R5） → 7か所を維持（R11）

<施策ごとの主な取組方向>

- 冬季に偏在する労働者の通年雇用化、学生と地元企業のマッチング支援や学生に対する情報提供を通じた地元定着の促進
 - 無料職業紹介所の開設による就業相談の実施
 - 若年者に向けた地元企業説明会等の開催

- 市町村と連携し、移住定住施策と一体となった人材誘致
 - 移住フェアなど後志をPRする場へのブースの出展等
 - SNS*等による情報発信

- 国際感覚やコミュニケーション能力を備えたグローバル人材*の育成、多文化共生*の推進
 - 多文化共生に向けた多様な主体の交流機会や外国語実践機会等の創出
 - ShiriBeshi 留学などを通じたグローバル人材の育成
 - 市町村と連携した多文化共生の場の提供

- 地域公共交通ネットワークの維持支援
 - 市町村や事業者と連携したバスの運転手確保の取組の実施
 - 公共交通利用促進のための広報活動

- 地域の特性を踏まえた防災対策の推進
 - 関係機関の連携による防災体制の強化
 - 地域住民等を対象とした原子力防災に係る地域学習会の開催

- 安全かつ安心に暮らせる医療・福祉体制の整備
 - 地域に必要な医療提供体制確保の推進
 - 安心して子どもを産み育てることができる環境づくり
 - 高齢者がいつまでも健康で暮らすための環境づくり
 - 障がいのある人が暮らしやすい地域づくり

- 地域住民等のカーボンニュートラル*に対する意識醸成
 - 地域住民等を対象とした出前講座などの啓発活動の実施



関連する主な基盤整備

- 高規格道路をはじめとする道路ネットワークの整備促進
- 地域を守るインフラ*の充実強化

関連するSDG s の目標



脱炭素社会を創造する「いぶり」産業展開プロジェクト

【推進エリア】胆振地域

【主な実施主体】国、道、市町村、民間、NPO

目的

胆振地域は、鉄鋼や自動車関連などの「ものづくり産業」が集積する産業拠点があり、国際拠点港湾*や近隣に道内最大の空港を有した本道経済をリードする地域である一方、豊かな自然環境に恵まれ、太陽光や風力、バイオマス*、地熱といった豊富に賦存する多様なエネルギー源の活用のほか、水素の活用や二酸化炭素の分離・回収・貯蔵に関する実証試験など、脱炭素型社会の実現に向けた取組を積極的に進めている地域です。

こうした胆振の地域特性を活かし、「ゼロカーボン北海道*」の実現に向け、本道の脱炭素化*をリードするとともに、産業の持続的な発展に取り組みます。

施策展開

- 【施策】
- 多様なものづくり産業拠点の形成促進
 - 産官学金連携などによる地域の強みを活かした産業の振興
 - 再生可能エネルギー*の普及や自然環境の保全などによる脱炭素化の取組推進

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI*）〉

- 道企業立地促進費補助金認定申請数 2件（R5）→10件（R11）
- 製造業の付加価値生産性* 2,041万円（R3）→2,580万円（R11）
- 電気自動車、燃料電池車、天然ガス自動車、プラグインハイブリット自動車の合計台数（室蘭運輸支局管内） 911台（R4）→3,000台（R11）
- 新エネルギー*導入量（発電設備容量*） 99.9万kW（R4）→155.4万kW（R11）
- 間伐の実施面積 4,382ha（H30～R4累計）→5,700ha（R7～R11累計）

〈施策ごとの主な取組方向〉

- 多様なものづくり産業拠点の形成促進
 - ものづくり産業拠点の重層化
 - 半導体関連企業などの立地促進
 - 脱炭素型の地域づくり及び関連産業の創出
- 産官学金連携などによる地域の強みを活かした産業の振興
 - 地域の伝統、脱炭素・先端技術の集積等の地域の強みを活かした産業の育成・振興
 - 恵まれた物流アクセス環境を活かした移輸出拡大

- 再生可能エネルギー*の普及や自然環境の保全などによる脱炭素化*の取組促進
 - 太陽光、風力などの再生可能エネルギーや水素エネルギーの活用に向けた機運醸成
 - 脱炭素型のライフスタイルやビジネススタイルへの転換に向けた普及啓発
 - 地域住民や企業との協働による自然環境の保全に向けた取組の促進
 - 計画的・効率的な造林や間伐、地域材*の利用拡大など森林資源の循環利用*の推進



関連する主な基盤整備

- 物流ネットワーク形成のための道路網の整備
 - ・ 高規格道路と一体となった道路網の整備促進
- 産業拠点の形成に向けた施設の整備
 - ・ 地域の優位性を活かした企業立地を一層促進するための基盤整備
- 自然豊かな水辺環境の整備・保全
 - ・ 環境に配慮した河川・砂防施設などの整備促進
- 健全な森林の整備と保全の推進
 - ・ 森林の有する多面的機能*を高度に発揮させるための森林の整備促進

関連するSDGsの目標



住みたい・訪れたい「いぶり」地域づくりプロジェクト

【推進エリア】胆振地域

【主な実施主体】国、道、市町村、民間、NPO

目的

胆振地域には、いぶり五大遺産*（洞爺湖有珠山ジオパーク*、アイヌ文化、縄文遺跡群、むかわ竜*、炭鉄港*）、ウポポイ*、日本有数の温泉地など特色ある豊かな地域資源があります。こうした地域の強みを活かし、関係人口*の創出・拡大や新鮮・多彩な食材の魅力発信や販路拡大に取り組むほか、地域の未来を支える人材の確保・育成、胆振東部地震からの復旧・復興、過去の巨大地震や火山噴火等の経験を踏まえた地域防災力を充実・強化するなどして、住みたい・訪れたい地域づくりを推進します。

施策展開

- 【施策】
- 地域資源を活用した関係人口の創出・拡大
 - 地域の豊かな食材の魅力発信や販路拡大
 - 地域の未来を支える人材の確保・育成
 - 胆振東部地震からの復旧・復興
 - 地域防災力の充実・強化

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI*）〉

○管内への観光入込客数	1,642万人(R5)→1,833万人(R11)
○地域おこし協力隊*の隊員数	111名(R5)→165名(R11)
○食品工業の付加価値額	453億円(R3)→493億円(R11)
○新規就農者数	118人(H30~R4累計)→168人(R6~R11累計)
○新規漁業就業者数	24人(H30~R4累計)→26人(R6~R11累計)
○新規林業参入者数	32人(H29,R1,R3累計)→35人(R7,R9,R11累計)
○新規高卒者の管内就職内定率	70.7%(R4)→72.4%(R11)

〈施策ごとの主な取組方向〉

- 地域資源を活用した関係人口の創出・拡大
 - 豊富な地域資源（いぶり五大遺産、ウポポイ、食資源等）のさらなる磨き上げ及び情報発信の強化
 - ウポポイへの誘客促進と管内広域連携による周遊観光の振興
 - いぶり五大遺産の活用による教育旅行の誘致やアドベンチャートラベル*などの体験型観光の振興
 - 地域おこし協力隊等との連携による移住・定住の促進
 - 岩手県三陸地域を中心とした東北各地域との交流やワーケーション*を通じた関係人口の創出・拡大

■ 地域の豊かな食材の魅力発信や販路拡大

- ICT*の利活用による新鮮・多彩な一次製品の生産・流通の促進
- 特色ある食材を活かした商品・メニュー開発及びブランド化の推進、国内外への販路拡大

■ 地域の未来を支える人材の確保・育成

- 関係機関が連携した人材確保対策の推進、就業体験機会等を通じた地域産業の魅力発信
- 管内企業の技術力の情報発信等によるものづくり産業の担い手確保・育成
- 就業しやすい環境づくりによる農林水産業の担い手確保・育成
- すべての子どもたちが健やかに育つことができる環境づくり
- ふるさとへの誇りと愛着を育むふるさと教育の推進

■ 胆振東部地震からの復旧・復興

- 地域産業の持続的な振興をはじめとした、復旧・復興方針に基づく取組の推進
- 移住・定住の取組の推進や、地域資源の磨き上げ・活用による被災地域への人の呼び込み強化

■ 地域防災力の充実・強化

- 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震*等の地震・津波対策の推進
- 火山防災の充実・強化のための訓練実施、計画整備の促進及び啓発活動の強化
- 地域における防災活動リーダーの育成促進



関連する主な基盤整備

- 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備
 - ・水田・畑・草地や農業用施設の整備推進
- 農地及び農業用施設の機能回復や災害を防止するための施設の整備
 - ・農地や農業用施設の機能回復
 - ・農地及び農業用施設の災害を未然に防止するための施設の整備推進
- 水産物供給基地としての漁港・漁場づくり
 - ・漁港、漁場などの整備促進
- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
 - ・観光拠点へのアクセス道路の整備

関連するSDGsの目標



「ナナイロひだか」産業振興プロジェクト

【推進エリア】日高地域

【主な実施主体】国、道、町、民間

目的

日高地域は国内の約8割を占める軽種馬生産に加え、全道一の生産量を誇るトマトやピーマン、デルフィニウムのほか、地域ブランドとして確立しているびらとり和牛、みついし牛、日高昆布や銀聖（鮭）、王蝶（マツカワ）など様々な農水産物に恵まれています。また、14 振興局の中で最も総面積における森林割合が高いなど、豊富な森林資源も有しています。

こうした恵まれた農林水産物の生産振興対策に引き続き取り組むとともに、「ひだか」製品の知名度向上と販路拡大に向け、デジタル技術を活用した効率化を図りながら、環境と調和のとれた持続可能な産業振興をめざします。

施策展開

- 【施策】
- 農林水産業の持続的発展に向けた生産振興対策の推進
 - 強い馬づくりに向けた軽種馬生産
 - 「ひだか」製品の知名度向上と販路拡大（再掲）
 - 移住・定住の促進などによる人材の確保（再掲）

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI[※]）〉

○漁業生産額	100 億円 (R5)	→	119 億円 (R11)
○軽種馬生産規模の維持	6,239 頭/年 (R5)	→	6,250 頭/年 (R11)
○振興局職員の副業従事者数（再掲）	36 人/年 (R5)	→	50 人/年 (R11)

＜施策ごとの主な取組方向＞

- 農林水産業の持続的発展に向けた生産振興対策の推進
 - 高収益作物の生産拡大による農業経営の安定化
 - クリーン農業[※]やブルーカーボン[※]など各分野における環境負荷軽減と脱炭素化[※]の推進
 - 適切な森林整備に伴い産出される木材の高付加価値化の推進
 - 管内農水産物に係る生産安定化対策の推進や6次産業化[※]・ブランド化等の高付加価値化
 - 安定した収益が見込める魚種による栽培漁業[※]の推進
 - 鳥獣被害防止対策の推進
 - 農林水産業における ICT[※]化の推進
- 強い馬づくりに向けた軽種馬生産
 - 強い馬づくりのための生産振興支援
 - 軽種馬経営の構造改革に向けた取組支援
 - ホッカイドウ競馬運営への支援

■ 「ひだか」製品の知名度向上と販路拡大

- 商品開発力・マーケティング*力強化
- 「ひだか」製品の販路拡大
- 「ひだか」製品のプロモーション

■ 移住・定住の促進などによる人材の確保（再掲）

- 地域おこし協力隊*の任用とネットワークづくりの推進
- 振興局職員を中心とした副業活動の拡大と地域の実情を踏まえた兼業の普及
- SNS*等のインターネットを活用した一元的な情報発信などによる、管内各町、団体等と連携した移住・定住の促進
- 地域医療の確保や福祉の充実

「ナナイロひだか」産業振興プロジェクト



関連する主な基盤整備

- 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備
- 水産物供給基地としての漁港・漁村づくり
 - ・漁港整備
- 水産資源の増大等に向けた施設づくり
 - ・増殖場の造成、漁場の整備
- 健全な森林整備と保全の推進
- 高規格道路の整備
 - ・日高自動車道の整備促進

関連するSDGsの目標



「ナナイロひだか」人材確保・育成プロジェクト

【推進エリア】日高地域

【主な実施主体】国、道、町、民間

目的

日高地域は、少子・高齢化により一次産業をはじめ各産業の担い手が不足しています。各産業における担い手の確保・育成はもとより、高校や大学との連携による若者のまちづくりに参画する機会の創出、移住・定住の促進、副業や障がい者雇用など多様な働き方の普及をめざします。また、様々な施策に必要なとされるデジタルやゼロカーボン分野の知識習得を後押ししていくほか、防災教育の推進、避難訓練の定期的な実施による防災・減災意識の向上を図るなど、地域を支える人材の確保・育成に向けた取組を総合的に進めていきます。

施策展開

- 【施策】
- 一次産業をはじめとする各産業の担い手等の確保・育成
 - 高校や大学と連携・協働した人材の育成
 - 移住・定住の促進などによる人材の確保
 - 防災・減災など地域を支える人材の育成

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉

○新規就業者数（農業）	12人（R4）	→	25人（R11）
○新規就業者数（漁業）	4人（R4）	→	16人（R11）
○新規就業者数（林業）	2人（R3）	→	4人（R11）
○振興局職員の副業従事者数	36人（R5）	→	50人（R11）
○自主防災組織※活動カバー率	54.1%（R5）	→	全国平均以上（R11） ※R5:85.4%

＜施策ごとの主な取組方向＞

- 一次産業をはじめとする各産業の担い手等の確保・育成
 - 管内外の就業希望者への情報提供、新規就農者の離農防止に向けた取組の推進
 - 新規就業者への研修や技術指導、給付金の交付などによる支援の実施
 - 地域の受入体制の整備や関係団体の取組の推進
 - 住民と外国人が互いの文化等を理解・尊重し合うことができる多文化共生社会*の理解促進
 - ダイバーシティ*の普及による働きやすい環境づくり
- 高校や大学と連携・協働した人材の育成
 - インターンシップや就業体験の実施
 - 馬文化出前教室の開催や調理を学ぶ学生への日高産水産物の提供、就業フェア等による地域産業への理解の促進
 - 高校生や大学生を中心とした若者が地域の課題解決に向けた検討を行うプロジェクトの企画・実施
 - 教育機関と連携した防災教育の実施
 - 高校生を対象とした北海道地域防災マスター*認定・フォローアップ研修の実施

■ 移住・定住の促進などによる人材の確保

- 地域おこし協力隊*の任用とネットワークづくりの推進
- 振興局職員を中心とした副業活動の拡大と地域の実情を踏まえた兼業の普及
- SNS*等のインターネットを活用した一元的な情報発信などによる、管内各町、団体等と連携した移住・定住の促進
- 地域医療の確保や福祉の充実

■ 防災・減災など地域を支える人材の育成

- デジタル技術の活用やゼロカーボンを推進する人材の育成
- 地域公共交通の維持・確保に向けた交通人材の育成
- 地域での防災活動のリーダーとなる人材の育成



関連する主な基盤整備

- 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備
- 水産物供給基地としての漁港・漁村づくり
 - ・漁港整備
- 水産資源の増大等に向けた施設づくり
 - ・増養殖場の造成、漁場の整備
- 健全な森林整備と保全の推進
- 高規格道路の整備
 - ・日高自動車道の整備促進

関連するSDG sの目標



「ナナイロひだか」魅力向上・発信プロジェクト

【推進エリア】日高地域

【主な実施主体】国、道、町、民間

目的

日高地域は広大な牧場風景に加え、ユネスコ世界ジオパーク*のアポイ岳や日高山脈から襟裳岬に連なる変化に富んだ海岸線など、豊かな自然環境を有しています。また、道内でも多くのアイヌの人たちが居住し、特色ある文化・風習が継承されている地域であるとともに、多様な食材の宝庫でもあります。

日高山脈襟裳十勝国立公園の誕生や高規格道路の延伸を踏まえ、民間企業や団体と連携しながら「ひだか」の魅力をより一層向上させ、積極的に情報発信していくとともに、住民や観光客の防災リスクを考慮した上で、広域連携によるプロモーションの強化、デジタル技術を活用した観光客の利便性向上を図ることで、関係人口*の創出・拡大をめざします。

施策展開

- 【施策】
- 札幌・胆振・十勝圏域などからの誘客を図る広域観光の推進
 - 豊かな自然や食などを活かした観光地づくりと受入体制の充実
 - 国内外に向けた「ひだか」の魅力の発信
 - 「ひだか」製品の知名度向上と販路拡大

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI*）〉

○観光入込客数 1,640 千人（R5）→ 2,083 千人（R11）

＜施策ごとの主な取組方向＞

- 札幌・胆振・十勝圏域などからの誘客を図る広域観光の推進
 - アイヌ文化や競走馬など、地域資源を組み合わせた広域観光ルートの創出や情報発信
 - 自然保護と利用が両立した誘客促進
 - 観光関連の民間事業者間の連携促進
- 豊かな自然や食などを活かした観光地づくりと受入体制の充実
 - 馬産地やアイヌ文化など、地域固有の文化や風土を活かした観光商品の開発
 - 観光の持続可能な発展を支える人材やガイド等の育成
 - 国や町、企業・団体との連携による地域が一体となった誘客活動
 - デジタル技術を活用した観光コンテンツ*の造成や体験価値の向上

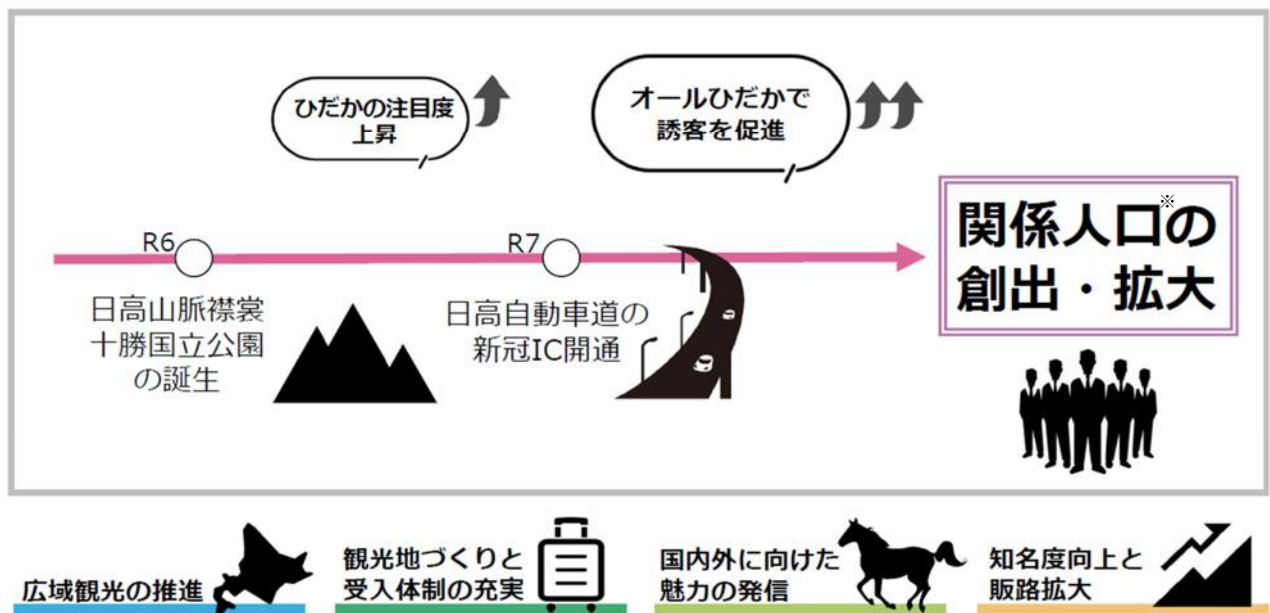
■ 国内外に向けた「ひだか」の魅力の発信

- 各種イベント、キャンペーンなどによるPR活動の実施
- SNS*などインターネットを活用した効果的な情報発信
- 民間企業と連携した情報発信

■ 「ひだか」製品の知名度向上と販路拡大

- 商品開発力・マーケティング*力強化
- 「ひだか」製品の販路拡大
- 「ひだか」製品のプロモーション

「ナナイロひだか」魅力向上・発信プロジェクト



関連する主な基盤整備

- 高規格道路の整備
 - ・日高自動車道の整備促進
- 安心して快適な旅ができる交通ネットワークの整備
 - ・日高自動車道の整備促進
 - ・道道の整備促進

関連するSDGsの目標

